

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272100377		
法人名	有限会社エーティ		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	静岡県富士宮市大中里1164-1		
自己評価作成日	平成24年2月24日	評価結果市町村受理日	平成24年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2272100377&SCD=320&PCD=22
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成24年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

庭には小さいながらも菜園があり、耕すところから収穫までの一連の作業を、近隣の方に教えて頂きながら、利用者様と職員が一緒に行っています。育てたり、収穫した野菜を調理し食べることにより、季節を感じています。四季折々のイベントも開催しており、ご家族の方も楽しんで頂けるようにしています。秋にはお祭りの山車がホーム駐車場内に来てくれるなど、地域に根付いています。また、犬を飼い生活を共にする家族の一員として、利用者様の癒しになっています。ほほえみでは、誰もが個々の生活スタイルを持ち、その方らしく過ごせる事を支援しています。のんびり、穏やかに、笑顔があふれる第二の我が家、そんなホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新しい職員でも3年勤続という定着率の良さと、馴染みの職員による支援が提供されている。全職員がセンター方式の研修を受講し、その結果、より多面的な観察で利用者の現状と意向を掘り下げた介護計画を作成している。地域の方々の協力で、祭りやバーベキュー・防災訓練・寄り合いどころの参加等、利用者は地域の一員として馴染みの方々と交流し、このような特色を備えたホームで、利用者は穏やかに暮らしている。普通の家庭の雰囲気でありながら、いつ訪問しても利用者がその人らしさを保って暮らしている姿に職員の不断の努力が垣間見える。「全職員が生き生きしている」と全家族からのアンケート評価にも納得する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『私たちはひまわりのような笑顔で自由な明るい生活が送れるように支援します』を理念とし、代表、管理者、職員一同共有し取り組んでいる。	設立当初からの理念を職員は良く理解し、できるだけ笑顔の暮らしが送れるよう互いに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所の際、地域の方に集まっていたき、理念や取り組みをお伝えしご理解いただいている。また、散歩時には世間話をしたり、地域の行事に参加させていただくことにより、交流を深めている。	地縁のある場所に立地し、利用者は地域住民と祭りやバーベキュー、防災訓練、寄り合いどころの参加等交流している。職員も地域活動に参加しその成果を利用者に反映できるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトである管理者が、市からの要請により、講座を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催している。その際外部の方と、意見や要望を交換し支援に活かしている。	概ね2ヶ月に一度の運営推進会議が継続されており、市の介護課、地域包括支援センター、区の関係者等熱意を持って参加している。ホームの現状を明らかにし、また災害時の支援等も話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所として、行き来する機会はほとんどないが、推進会議の際にお伝えしている。	運営推進会議参加や利用者の生活相談等、必要に応じて連絡を取っている。研修情報や感染症情報等運営に関わる情報提供もあり、利用者へのサービス向上に資するよう共に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として行っていないが、命の危険にさらされ、守るための代替が無い場合のみ、事前にご家族に現状説明し、ご理解・納得をいただいた上で、署名・捺印をいただいでから、実施する取り決めになっている。	やむを得ない場合の拘束に関して、マニュアルや家族承諾書等整備されているが、ホームでは一切の拘束を排除している。玄関は飼いの犬の動きもあり日中の開錠が常態である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度のミーティングの際、職員の対応や対処について、意見交換し、お互いを振り返り、話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている利用者様がいらっしゃるの、職員にも浸透している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、ご家族の不安点・疑問点を伺い、十分な説明と話し合いをし、納得していただいたうえで契約していただいている。また、ご面会の際にも、随時お話を聞き、不安点・疑問点を解消していただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日々の会話の中から聞きとり、それを職員で共有し反映している。ご家族については、面会時に聞く事を心掛け、できるだけ要望にそえるよう努力している。玄関には意見箱も設置している。	家族の意向は面会時に聞き取っており、食事や生活支援等に反映させている。日々の支援から見出した利用者の意向は家族と話し合って最良の支援へとつなげている。	手書きの便りを送付したり、面会時の会話で意思疎通の万全を図っているが、相互の解釈がずれていることもあるので一層の取り組みを願いたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際、全職員が意見や提案をできるような時間を設けている。また、ミーティングで取り上げてほしい事を記入するノートもあり、職員が積極的に参加できるようにし、それを多方面で反映している。	職員の定着により理解しあえる仲間の、あうんの呼吸が多く確認できた。コーヒータンや定例会議で役割分担や業務のルール等細部まで話し合い職員間でいちがいの無い運営がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の性格・適正・感性を知り、励まみや、ねぎらいの言葉を掛けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に合った研修への参加を促している。また、ミーティング時に管理者や職員の看護師が講習を開き、スキルアップを心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同で行われる研修・運動会・新年会など、交流できる場には、すすんで参加し、情報交換をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	『傾聴』という言葉を理解し、日々の会話の中から聞き取るよう努めているが、入居を理解できない方もいらっしゃるのでは、思うように聞き取れない事もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談の際、ご家族の意向・不安点をじっくり聞き、意向のはできるだけ添えるように、不安な事は、取り除けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム対象外の場合は、担当窓口と相談し、他のサービスの検討を依頼している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるため、一緒に作業する中では、常に尊敬し、学ばせて頂く姿勢で過ごしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に、意見や意向を聞き、その希望に添えるよう職員が支援するという関係を築いていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際には、ご自宅に立ち寄り、植木の世話をしたり、近所の方とお話をする事により、関係を保てるようにしている。また、馴染みの方にはいつでもご面会に来ていただけるようお伝えしている。	馴染みの方との関係継続の機会として、病院や美容院は家族協力の下、行きつけの場所を利用している。家族への携帯電話や友人への手紙等も利用者の希望に応じて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一つの作業を、職員を交えた数人で行う事により、みんなで談笑し、信頼関係を築いている。お互いの存在を確認することで、誘い合ったり、支え合ったりする姿が見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了は、入院後転院、死亡のケースがほとんどです。葬儀には代表が出席している。ホームとしては、ご家族の必要に応じて相談にのる体制でいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から聞き取るように努力している。会話から聞き取れない方や、自己決定が出来ない方は、生活歴やご家族の意向を聞き、全職員で共有している。	入居前に家族等から聴取し、入居後は利用者と一緒に過ごす中で、雑談やジェスチャー・表情等多方面から把握している。職員は、自分の大切な人がどう接して欲しいか、自分に置き換えたらどうかを考え、把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を導入し、本人やご家族から聞きとるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に記入する事により、全職員が情報を共有し、把握できている。特記事項を記入するノートもあるため、職員はこのノートと介護記録には必ず目を通すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の気付きは随時報告し、ミーティングで個々の現状に適切な支援を話し合い、全職員で情報を共有し、介護計画に反映している。なお、記録・視点などにおける外部研修を全員受けることにより、スキルアップに努めている。	介護計画は2、3ヶ月毎に見直す。変動時は毎月見直している。月1回のミーティングや申し送り時に職員間で情報を共有し、全員が記入できる丁寧な介護記録を活用し、利用者の意向を汲み取った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には毎日の気付きを記入している。特記事項は記録と申し送りノートに二重に記録する事により、職員への情報の浸透をはかっている。工夫や実践の結果を書くことにより、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ本人や家族の意向を聞き、それに添えるよう随時話し合いや、対応をしている。既存のサービスにとらわれず、その時、その方に合ったサービスが出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安全で、豊かに過ごせるよう、日々の気付きの中で、その方が出来る事は、可能な限り発揮していただきながらも、無理のないよう支援させていただいている。そしてその情報を全職員で共有できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の月に2回の往診があるため、利用者の皆さまにはそこで医療を受けて頂いている。しかし、ご家族、ご本人が馴染みの医療機関で受診を希望される場合は、そちらを受けて頂いている。	月2回の往診があり、利用者全員がこの協力医を主治医としている。ホームの看護師が往診時に同席し、健康管理を行っている。往診時に、可能なら家族等も同席し、不可能な時は後日面談時に家族等に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しているため、健康管理は主に看護師が行っている。その上での気付きや異変は、随時職員に伝えられ、適切な対応を話し合っている。また、看護師は25時間オンコールにしてある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の協力により、迅速かつ安心できる対応が来ている。その際には医療機関と情報の共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、終末期ケアの書類を作成、説明し、ご家族の意向を伺っている。	「ターミナルケア説明書」と「終末期のケアに関する意向伺い書」を入居時に説明し提示している。現在はいないが、重度化した場合は主治医の判断をもらい家族等の同意を得ることになっている。急変時の対応や処置方法の職員研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、全ての職員が把握できている。ミーティングの際には、看護師が講習を開くなどし、実践力アップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回消防署の協力のもと、避難訓練を行っている。ミーティングの際には、避難方法を全職員で実践し、身につくよう努力している。また、近隣の方への協力を依頼し、受け頂いている。	年2回の防災訓練に加え、消防署が協力する訓練を年1回実施し、夜間を想定した訓練も実施している。避難時の近隣住民の協力について了解を得ている。防災マニュアルがあり、非常用食料や水・備品も備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩である事を忘れず、その方の生活歴を把握し、人格を尊重した言葉かけや、対応を心掛けている。	利用者の経験話に素直に耳を傾ける等、年長者として敬意を払うとともに、言葉遣いに注意し、押しつけでなく同意をもらう言葉掛けと対応に配慮している。記録は施錠のできる室内に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の中には、意思表示する事が困難な方や、遠慮がちな方もいらっしゃるので、個々に合わせた説明をし、できるだけご本人が表現や自己決定が出来るように声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の為、全ての希望に添えるわけではないが、できる限り意向や希望に応えられるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みの美容室・床屋に行かれる方や、お化粧をせれる方、入浴後に整髪やお肌のお手入れをされる方がいらっしゃいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で、利用者様・職員・近隣の方と一緒に作った野菜を収穫し、調理している。行事食を作ることで、季節を感じ楽しんでいる。準備から片付けの一連の作業は、個々が無理せずできる事を見つけ、職員と一緒にやっている。	職員が利用者の希望も聞きメニューを決め、利用者や職員と一緒に食卓を囲み楽しんでいる。食事の手伝いができる利用者もいる。季節の行事食やおやつ・弁当や外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を、毎食後チェックし、定時に水分補給の時間を設けている。また、その方の栄養状態や、摂取量に応じて、捕食も用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個人の力量に応じた口腔ケアをし、チェック表に記入している。また、夜間は義歯を外し、つけ置きをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎回排泄チェック表に記入する事により、全職員が個々のパターンを把握し、定時、随時に声をかけ、その方に合わせた支援をしている。なるべくトイレでの排泄ができるように、食事面での支援も行っている。	排泄チェック表によるパターンの把握や声掛け、また食事面での繊維質、海藻等材料やカット方法等の工夫により、利用者の負担がない限りトイレでの排泄支援を行っている。リハビリパンツから布パンツへの改善も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記入している。野菜や繊維質を多く取ること、また、トイレ前に歩いたいただくなどをして、便秘の予防を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自己決定のできる方には、声かけをし、できるだけ本人の希望に添えるようにしている。その他の方には、ご家族の意向を聞き、その時々体調を踏まえて行っている。拒否が見られるときは無理強いはない。	隔日が基本であるが、毎日入浴する利用者もいる。順番も本人が決めることもでき、利用者の気持ちに沿うようにしている。入浴前には血圧、体温のチェックを行っている。季節感を感じさせるゆず湯や菖蒲湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんどの方が、日中リビングで過ごされているが、休息のため居室で過ごされる方もいる。その日の個人の体調を見て、休息をとっていただいたり、ご本人が希望される時には、居室で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルの最新の薬事情報を添付し、全職員が理解できるよう取り組んでいる。また、薬によっては、服薬前後に血圧を測ったり、頓服の場合は記録に記入し、全職員が個々を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴や力を把握し、その時できる事をやっていたりしている。その際には、感謝の気持ちを伝えている。嗜好品や楽しみ事は、生活歴や会話の中から見つけ、支援につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や嗜好品の買い物など、個人の状態に合わせて行っている。地域の行事にも、ご本人の希望を聞き、参加するようにしている。	散歩や日光浴、買い物を利用者の体調と希望に合わせて実施している。また、利用者の要望を聞きながら、花見や公園、いちご狩り、外食に出掛けたり、地域行事への参加やドライブ等も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により、ご家族との相談の上、利用者様が所持管理している。また、こちらで預かり、管理するという方もいらっしゃる。金銭に変化があった場合は、必ず職員が出納帳に記入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、手紙については、自ら書かれる方がいないが、電話はご本人の希望があればかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を作り、常に清潔な空間作りを心掛けている。リビングには、季節に合わせた、手作りの壁画やオーナメント、お花などを飾り、季節を感じられるようにしている。	居間兼食堂は南向きで日当たりが良く、季節の飾りつけや利用者と職員の共同作品の折り紙が掲示されており、ほとんどの利用者が日中をここで過ごしている。体操をしたり、洗濯物を畳んだり、歌を歌って過ごす利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、狭いながらもテーブル席、ソファ、畳と異なった空間があるため、利用者様の好きなところに座っていただいている。その際には、お互いを誘い合う姿も見られ、雑談・読書など思い思いの時間を過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、家で使い慣れた物を持ち込んでいただくことにより、利用者様が居心地良く過ごせるようにしている。	ダンスや机・電気こたつ・冷蔵庫・テレビ・時計・仏壇・お気に入りの絵画・ひな人形等好みに応じ、使い慣れたものや好きなものが自由に持ち込まれ、利用者一人ひとりがゆったり過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・エレベーター・手すりを設置している。その事により、利用者様が安全かつご自分の力を発揮しやすく、できるだけ自立した生活を送っていただけるよう配慮している。		